善養寺便り

第十六号
平成二十九年十月号　発行　善養寺

◆姫路中組の行事から「姫路中組キッズサンガ」

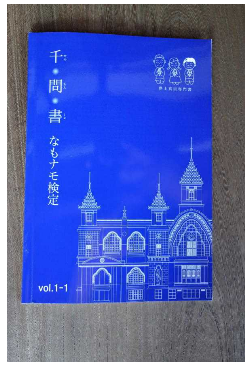
毎年恒例の「姫路中組キッズサンガ」が八月二十三日（水）光源寺において催されました。中組各寺院よりご門徒の子どもたちが約六十人も集まりました。当坊からも四名のお子さんが参加してくださいました。

キッズサンガというのは、子ども向けのお寺の行事です。お寺にお参りして、お勤めをしたり、歌やゲームをしたりします。姫路中組では数年前前から、組の行事として取り組んでいます。

当日、十時に集合し、まず「らいはいのうた」をお勤めしました。事前に教えてくれるので、皆大きな声でお勤めができました。

その後、ゲームや歌を歌ったり、工作をしたりしました。今年のゲームは、クイズが中心です。クイズは、兵庫教区が今年から始めた「なもナモ検定」のテキストである「千問書（せんもんしょ）」からの出題でした。最初の問題はこうです。

「釈尊が生まれたのは
　何月何日？」
①五月二十一日
②四月八日
③十二月八日



これはご存知ですね。キッズサンガには就学前のお子さんもいるので、小さなお子さんには難しい面もありましたが、皆十分クイズを楽しみました。その後は、牛乳パックでコマ作りをしたり、仏教婦人会の有志の方々のカレーをいただいたりして、とても楽しい一日を過ごすことができました。中学生まで参加可能ですので、来年はたくさんのご参加をお待ちしております。

先ほどの答えは②です。

「第一回聞法大会」

去る九月九日、姫路市文化センター大ホールにおいて、「第一回姫路中組聞法大会」が盛大に催されました。

善養寺からも、多くのご門徒の方や門徒さんのご友人の方に足を運んでいただきました。

誠にありがとうございました。

当日は次のようなプログラムでした。

第1部　勤行　音楽法要「正信偈」
　姫路中組各部紹介
　門徒推進員連絡協議会、門徒総代会、
　寺族婦人会、仏教壮年会、仏教婦人会
第2部　ご法話　行信教校講師　山本攝叡師
第3部　アトラクション
　・雅楽とコーラス
　　姫路中組なもナモ合唱団
　・播州音頭「親鸞聖人一代記」
　　堀川町音頭保存会

「親鸞聖人一代記」

音楽法要は、本願寺伝灯奉告法要での「宗祖讃仰作法」を再現しました。雅楽と電子オルガンの伴奏で歌われた正信偈はなかなか聴き応えがあったと思います。

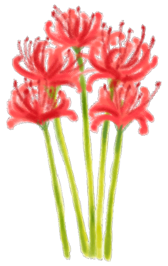
なもナモ合唱団は、この日のために7月に結成されました。

◆秋のお彼岸
第二回善養寺おてらくご
「桂雀々さん落語会」

九月二十三日（土）秋の彼岸会、第2回善養寺おてらくご「桂雀々さん落語会」を開催しました。毎年、秋のお彼岸は仏教婦人会による仏教講演会を開いていましたが、もっと多くの方にお寺に来ていただこうと、昨年から「おてらくご」を開催しています。

そもそも落語は、僧侶の法話から発展したとも言われています。昔は、お寺のお説教も高座に上がってしていたらしいのです。

そして、今年も昨年に続き、桂雀々さんをお迎えしました。お話は、雀々さんの師匠である桂枝雀さんの話、その弟子時代の話なども面白おかしく交え、様々な落語に関するの話があり、最後はよく知られている「移動動物園」のネタで締めくくられました。全体として約1時間、身体全体を使った、たいへんエネルギッシュな落語で、満堂のお客さんも皆大いに笑い、本物のプロの話芸に酔いしれてお帰りになりました。今回は、ご門徒限定ではなく、ご門徒の友人やお寺の近隣の方も聴きに来ていただきました。たくさんの方に楽しく笑っていただきたいへん良かったです。



◆二十九年度行事

今年も早くもあと三ヶ月。まったく月日の過ぎるのは早いものですね。十月後半は、報恩講の準備です。十月下旬から当坊のご法中各寺院が報恩講を勤めます。

善養寺は毎年、曜日に関係なく十一月一日、二日です。どうぞお参りください。

「報恩講法要」
十一月一日（水）二日（木）
講師　栗原一乗師（三原市）

「第三回仏教講演会」
十二月十四日（木）
講師　谷川弘顕師

「年末納骨堂大掃除」
十二月二十六日（火）十時より

◆姫路中組より
十月二十五日（水）
姫路中組青年布教使布教大会
十三時～十六時　場所　光蓮寺
※詳細は同封の別紙をご覧下さい。

十月のことば

今を生きずに　いつを生きる
ここを生きずに　どこを生きる

大神　信章

音楽法要 700人大合唱
文化センターで「姫路中組聞法大会」

姫路市内の浄土真宗本願寺派21ケ寺の門徒らが集まる「姫路中組聞法大会」が9日、同市西延末の市文化センターであった。音楽法要や僧侶の法話に約700人が耳を傾けた。

同派兵庫教区姫路中組が、「堅苦しい」と思われがちなお経の魅力を伝え、仏法に興味を持ってもらおうと初めて企画した。

この日は、21ケ寺の門徒らで結成した「姫路中組なもナモ合唱団」初お披露目の舞台。僧侶と一緒に、浄土真宗の開祖親鸞の著書「教行信証」に所収されている「正信偈」を音楽に合わせて読経する音楽法要を行った＝写真。伴奏には、和太鼓や横笛などの雅楽器や電子オルガンが使われた。

同派定専坊（大阪市）の山本攝叡住職は「仏法の新鮮さとおもしろみ」と題して法話。視野を広げて生きる工夫を盛り込んだ話に、会場は聞き入っていた。

同合唱団の兒林悠さん(23)は「西洋音楽とは違って拍子がなく、難しいところもあるが、丁寧に歌えた」と話した。

（谷川直生）

聞法大会の記事が翌日（9/10）の神戸新聞姫路版に掲載されました。

中央に写っている僧侶は、当坊の後住です。